

教育・研究業績書

領域名 地域看護学		
<教員の紹介>		
教授 佐々木 美佐子 准教授 熊倉 みつ子 講師 石川 由美子 講師 宮本 和子		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
地域看護学の教育方法の工夫 1. 地域看護学概論	2008年4月 ~2009年7月 2008年4月～現在	地域看護学は必修科目7科目12単位(実習2科目5単位含む)で構成されている。大学教育における地域看護学教育は、看護師教育と保健師教育の統合カリキュラムで実施するため教育上の課題が多い。一つは看護基礎教育課程の科目の読み替えにより、地域看護学教育は保健師の実践基礎能力を育成するのは授業時間数が少ない、二つは他の看護学と同時進行で授業が進められていくため科目の履修順序からくる学生のレディネスが不十分の状態での教育の実施であり、学生にとっての地域看護学の難しさは、臨床看護学を学びつつ地域看護の特性を学ばなければならないことにある。そこで、大学の教育課程編成の特徴と学生の現状を踏まえて教授方法を工夫している。 2年次前期に開講する科目（2単位）である。科目名は地域看護学概論であるが、地域看護領域を包括的に眺めるいわゆる地域看護学の輪郭を大まかに学ぶ科目としてではなく、地域看護学の基礎と位置づけて教授する。地域看護の根本となる理論を2年次後期以降に学ぶ他の地域看護学科目に関連づけて教授して学生の知識の統合を助けること、レディネスの不十分な学生が地域看護の独自性を明確にイメージできるように具体的な事例や適切な視聴覚教材を選び用いること、小テストを実施して理解の状況を把握しながら授業

<p>2. 地域看護在宅看護論</p>	<p>2008年10月 ～2009年2月</p>	<p>展開をするなどの工夫をしている。</p> <p>講義冒頭に学生一人一人が在宅療養を身近なものとして考えることができるように、「自分が在宅療養者だったら」「家族介護者だったら」等の状況設定のもとにグループ討議を実施し、療養者と家族の価値観の差や個々の生き方の尊重について考える時間をとっている。</p> <p>また、在宅看護技術演習では、課題ごとにグループで演習計画をたて、実施後はグループ間評価を取り入れ、主体的学習を進めるように展開した。</p>
<p>3. 地域看護保健指導論</p>	<p>2008年10月 ～2009年2月</p>	<p>2年時後期に開講する1単位15コマの科目である。疫学および公衆衛生学が未履修であるため、健康保持増進に必要な疫学・公衆衛生上の基本的な考え方を導入部分で説明し、保健師活動の概念的理解を促した。地域で保健師が活動する対象である、個人、集団、地域が理解できるように、システム理論を用いて説明した。あらゆるライフステージや健康レベルにある人々に応じた保健活動を講義し、保健行動関係理論から考察できるように、グループワークを行った。授業内容に関するミニレポートを各授業の最後に提出してもらうことで、学生の理解度を確認し次の授業でフィードバックするように工夫した。また、国際的視野および研究的側面から保健活動を考えるために、WHO、CDC、国立感染症研究所ホームページより健康課題を見出し、医学中央雑誌より保健行動と自己効力感に関する近年の研究成果を読み取る活動を取り入れた。</p>
<p>4. 地域看護活動展開論</p>	<p>2009年4月～現在</p>	<p>3年前期開講の地域看護活動展開論は、地域集団における地域看護診断の方法技術を教授する科目(1単位)である。地域看護診断の学習方法として、ヘルスプロモーションの理念を基本においたコミュニティ・アス・パートナーモデルを用いた教授法をとっている。30時間のうちの16時間は4年次前期に行う地域看護学実習Ⅱの市町から</p>

<p>5. 地域看護健康教育論</p> <p>授業評価</p>	<p>2009年5月～現在</p> <p>2008年7月～現在</p>	<p>提供された既存資料を用いた地域把握・地域診断の演習を小グループで実施し、4年次前期に保健所・市町村に出向き、地域看護活動を体験するという地域看護学実習Ⅱに連動するよう工夫をしている。</p> <p>3年時前期に開校する1単位15コマの科目であり、編入生も受講する。本科目は地域看護保健活動論を基礎として、保健師活動の一つである健康教育に焦点を当て講義と演習を組み合わせている。編入生は地域看護保健指導論が未受講であるため、健康行動に関する理論の復習を導入部分の講義で行い、健康教育に不可欠な学習理論と関連付けながら学習できるように、健康教育の企画および事業評価について講義した。演習では、7名以下の小グループを作り、地域住民の健康課題に応じた健康教育を企画し、地域住民に想定した学生同士で実際に教育を実施し、評価し合うことで実践に近い学習を行った。演習の進め方について、次年度からの授業改善を図るため、学生から評価を受けた。</p> <p>各開講科目について学生による授業評価を受け、良好な結果を得た。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>地域看護学概論教材作成</p> <p>地域看護保健指導論教材作成</p> <p>地域看護学教科書「標準保健師講座 2 地域看護技術」第2版第4章、障害を受容する</p>	<p>2008年4月</p> <p>2009年4月</p> <p>2008年9月</p> <p>2009年1月</p>	<p>看護学を学び始めた2年次前期の学生が、地域看護の基本理念、基礎理論、独自性看護を理解するにはテキストの記述が不十分と考えられたので、シラバスの講義テーマごとにパワーポイントを用いて教材を作成した。</p> <p>あらゆる健康レベルとライフステージにある個人・集団・地域の保健活動について、特徴および施策・理論と関連づけて多面的に理解できるよう、パワーポイントを用いて教材を作成した。</p> <p>脳血管疾患の後遺症と共に暮らす家族の支援を通して、障害受容の過程と支援および保健師の</p>

<p>課程への援助、医学書院</p> <p>地域看護過程教材開発</p> <p>地域健康教育演習要項作成</p>	<p>2009年5月</p> <p>2009年5月</p>	<p>行う家庭訪問の特徴と特殊性が理解できるようテキストを作成した。</p> <p>地域保健活動および健康教育が、地域看護過程の中における位置づけと、評価内容が次の保健事業に反映される一連の流れについて、学生の理解を助けるために、関連図を作成し授業の中で活用した。</p> <p>地域看護健康教育論の演習において、学生が順序立てて学習を進められるように、演習の目的・目標、課題および学習活動のスケジュール、評価項目を提示した。また、学習過程と内容が整理できるように、教育企画書およびピア評価の様式作成を行った。</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>領域カンファレンス</p>	<p>2009年5月～</p>	<p>週一回カンファレンスを開き、課題に対する学生の学習状況と反応を見て、授業の進め方と指導方法を領域教員全員で検討し、効果的な教育方法の実践に繋げた。</p>

教育・研究業績書

領域名	職名	氏名	
地域看護学	教授	佐々木 美佐子	
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1964年～現在		日本看護協会員	
1972年～現在		日本公衆衛生学会員	
1996年～2006年3月		日本在宅看護学会員	
1997年～現在		快適住まい環境研究会員	
1998年～現在		日本地域学会員	
1998年～2006年3月		上越在宅ケア研究会幹事	
2000年～2006年3月		日本看護科学学会員	
2000年 4月～現在		上越市介護保険運営協議会副委員長	
2004年 4月～2006年3月		新井市介護保険運営委員会委員	
2004年 7月～2007年10月		上越市少子社会を考える市民懇談会委員長	
2004年 8月		第26回保健師学術研究会査読委員	
2004年 8月		日本在宅ケア学会誌投稿論文査読委員	
2004年11月～2006年3月		上越市建築審査会委員	
2005年 2月～2007年10月		小千谷市中越地震被災地区健康福祉支援推進会議委員	
2005年 3月		日本在宅ケア学会誌投稿論文査読委員	
2005年 6月～2006年3月		上越市地域総合健康管理センター倫理審査委員会委員	
2005年10月～2006年3月		新潟県健康福祉ビジョン策定検討委員会委員	
2006年 1月		日本健康科学学会査読委員	
2006年 3月		日本在宅ケア学会学術研究会研究発表座長	
2006年 3月～現在		新潟県看護協会歴史編纂委員保健師部会長	
2006年10月～現在		新潟市建築審査会委員	

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

和文

1. 新井信之, 荒賀直子, 石原多佳子, 上原里程, 江藤真紀, 奥山則子, 尾形加代子, 梶田悦子, 北岡英子, 国分恵子, 後閑容子, 後藤順子, 斉藤智子, 桜井しのぶ, 佐々木美佐子, 芝山江美子, 白井英子, 中村好一, 橋本佐由理, 畑下博世, 畑中高子, 原綾子, 藤井千恵, 堀江節子, 枡本妙子, 松田一美, 宮内清子, 宮田延子, 守田孝恵, 山口忍, 吉田久美子, 吉田亨: 第5章生活集団と保健活動 Ⅲ在宅ケア, 編集荒賀直子, 後閑容子, 改定第2版地域看護学jpp, インターメディカル, pp413-428, 2008.

【原 著】

和文

1. 降旗幹子, 佐々木美佐子, 石川鎮清, 萱場一則: 「行政保健師が他施設と行う研究体制プロセスの特性」 独協医科大学看護学部紀要 第2巻, 2009.

【症例報告】

【総 説】

【そ の 他】

和文

1. 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯由令枝, 斉藤智子: 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャルサポートに関する研究(第2報) 平成15年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp17-22, 2004.
2. 杉田収, 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯由令枝, 斉藤智子, 吉山直樹, 関谷伸一, 橋本明浩: 地域ケアを支える住宅環境に関する研究—室内ホルムアルデヒドの簡易測定法— 平成15年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp23-34, 2004.
3. 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯由令枝, 斉藤智子: 大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築 平成15年度新潟県立看護大学看護学学長特別研究費研究報告書, pp55-61, 2004.
4. 佐々木美佐子: 地域看護学の概念・公衆衛生看護活動の原則 新潟県産業推進保健センター産業看護N講座テキスト, pp32-41, 2004.
5. 佐々木美佐子: 地域看護学専攻の開設から閉学まで 新潟県立看護短期大学紀要 第10巻, pp31-34, 2005.
6. 飯由令枝, 小林美代子, 斉藤智子, 平澤則子, 佐々木美佐子, 高橋初美, 小林恵子: 新潟県立看護短期大学卒業生・修了生の動向 新潟県立看護短期大学紀要 第10巻, pp19-26, 2005.
7. 野地有子, 加城貴美子, 加藤光宝, 田中キミ子, 富川孝子, 佐々木美佐子, 加国正子, 深澤佳代子, 堀良子, 井上美由紀, 岡村典子: 看護領域別演習科目におけるチュートリアル導入の効果と課題 平成16年度新潟県立看護大学看護学学長特別研究費研究報告書, pp1-13, 2005.

8. 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯由令枝, 斉藤智子, 横尾加奈江, 外立直子: 豪雪地における高齢者のソーシャル・サービス・システムの構築に関する研究 平成16年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp11-15, 2005.
9. 杉田収, 斉藤智子, 小林恵子, 中川泉, 佐々木美佐子, 室岡耕次, 大竹朗, 宮越亮, 杉田靖子: 地域のヘルスニーズに基づく住環境支援—豪雪地域での頸髄損傷患者住宅の提案— 平成16年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp17-23, 2005.
10. 籠玲子, 斉藤智子, 菅原峰子, 飯由令枝, 唐沢千登勢, 朝倉京子, 北川公子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 津田さとみ, 中川泉, 中野正春, 野地有子, 平澤則子, 中島紀恵子: 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の実態 平成16年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp51-58, 2005.
11. 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯由令枝, 斉藤智子: 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究報告書, pp全77, 2006.
12. 飯由令枝, 平澤則子, 斉藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 横尾加奈江, 外立直子: 豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システムの評価 平成17年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp1-5, 2006.
13. 杉田収, 中川泉, 飯由令枝, 斉藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 室岡耕次, 坂本ちか子, 杉田靖子, 濁川明男: 化学物質過敏症に関する研究—発症者の反応化学物質と上越市立小学校児童のCS関連症状調査— 平成17年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp6-11, 2006.
14. 小林恵子, 斉藤智子, 飯由令枝, 佐々木美佐子, 平澤則子: 災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究 平成17年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, pp22-25, 2006.
15. 佐々木美佐子, 牛尾裕子, 佐藤紀子, 山田洋子, 関島英子, 斉藤益子, 山城久則, 村田篤司, 長谷川史乃, 京谷美奈子, 松下裕子, 尾崎米厚, 宮松直美: 2006年版保健師国家試験問題回答と解説 医学書院, pp42, pp53-75, pp537-539, 2005.
16. 佐々木美佐子, 牛尾裕子, 塩見美沙, 佐藤紀子, 斉藤益子, 山城久則, 飯由令枝, 斉藤智子, 長谷川史乃, 澤井美奈子, 上野まり, 村田篤司, 宮松直美: 2007年版保健師国家試験問題回答と解説 医学書院, pp42, pp53-77, pp89-91, pp310-314, pp551-552, 2005.
17. 佐々木美佐子, 牛尾裕子, 岩佐真也, 佐藤紀子, 山田洋子, 藤井広美, 関島英子, 斉藤益子, 加藤千晶, 山城久典, 村田篤司, 飯由令枝, 斉藤智子, 長谷川史乃, 京谷美奈子, 上野まり, 松下裕子, 尾崎米厚, 宮松直美: 2008年版保健師国家試験問題回答と解説 医学書院, p42, pp54-77, pp324-330, pp527-529, 2007.
18. 佐々木美佐子, 牛尾裕子, 岩佐真也, 佐藤紀子, 山田洋子, 藤井広美, 関島英子, 斉藤益子, 加藤千晶, 山城久典, 村田篤司, 飯由令枝, 斉藤智子, 野崎律子, 長谷川史乃, 京谷美奈子, 上野まり, 松下裕子, 尾崎米厚, 宮松直美: 2009年版保健師国家試験問題回答と解説 医学書院, pp42, pp54-75, p333, p554, 2008.
19. 佐々木美佐子, 牛尾裕子, 塩見美沙, 岩佐真也, 佐藤紀子, 山田洋子, 藤井広美, 関島英子, 斉藤益子, 加藤千晶, 山城久則, 飯由令枝, 斉藤智子, 長谷川史乃, 澤井美奈子, 上野まり, 村田篤司, 宮松直美: 2010年版保健師国家試験問題回答と解説 医学書院, pp42, pp60-80, pp604-607, 2009.

教育・研究業績書

領域名	職名	氏名	
地域看護学	准教授	熊倉 みつ子	
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1981年3月～現在	全国膠原病友の会栃木県支部役員		
1990年4月～現在	日本看護研究学会員		
1999年4月～現在	日本公衆衛生学会委員		
2000年7月～現在	日本看護科学学会員		
2004年4月～現在	日本地域看護学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>熊倉みつ子</u> ：在宅ケア・在宅看護. 中谷芳美, 久保田君枝, 奥野ひろみ, 深江久代, 三輪真知子, 鈴木千智, 小川 亜矢, 桜井尚子, 高橋麻季子, 岡本玲子, 今福恵子, 標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院, pp 248-260, 2005.			
2. <u>熊倉みつ子</u> ：在宅看護における保健師の役割. 平山朝子, 宮地文子編, 公衆衛生看護学大系4 成人保健指導論・難病保健指導論 日本看護協会出版会, pp 264-271, 2005.			
【原 著】			
和文			
1. 飯島満枝, 岡文代, 山根美智子, <u>熊倉みつ子</u> , 小林千賀子, 板橋イク子：糖尿病性腎症で透析を受けている独居患者の看護—生活行動制限が受け入れられない患者の適応について—. 日本適応看護理論研究会学術論文集5巻1号, 2006.			
【症例報告】			
【総 説】			
【その他】			

教育・研究業績書

領域名	職名	氏名	
地域看護学	講師	石川 由美子	
II 学会等および社会における主な活動			
1999年5月～現在	Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 会員		
2001年9月～現在	Gerontological Society of America 会員		
2005年6月～現在	Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing International Reviewer		
III 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 中村裕美子, 奥山則子, 神馬征峰, 山崎喜比古, 渡部月子, 標美奈子, 掛本知里, 根岸由美子, 村岡恵子, <u>石川由美子</u> , 鈴木浩子, 久保紘章, 金子絵里野乃, 小山修, 松下祐, 佐々木峯子, 日隈桂子, 清水由美子: 障害を受容する過程への援助. 標準保健師講座2 地域看護技術, 第1版 医学書院, pp97-101, 2005.			
2. 中村裕美子, 奥山則子, 松下祐, 神馬征峰, 山崎喜比古, 渡部月子, 標美奈子, 掛本知里, 根岸由美子, 北山秋雄, 村岡恵子, <u>石川由美子</u> , 鈴木浩子, 久保紘章, 金子絵里野乃, 小山修, 佐々木峯子, 山本昌江, 成木弘子: 障害を受容する過程への援助. 標準保健師講座2 地域看護技術 第2版 医学書院, pp122-128, 2009.			
【原 著】			
欧文			
1. Morita T, Matsumoto Y, <u>Ishikawa Y</u> , Hatashita H, Yamazaki H, Yamaguchi S: Nation-wide study of environmental assessment for people with Schizophrenia in Japan. Nursing and Health Sciences 6: 181-191, 2004.			
和文			
1. 畑下博世, 笠松隆洋, 弓庭喜美子, 守田孝恵, <u>石川由美子</u> , 松井美帆: 山村住民における性別年齢階級層別にみた生活習慣の特徴. 厚生指標 51: 7-13, 2004.			
2. 畑下博世, <u>石川由美子</u> , 守田孝恵: エキスパート保健師が行うケアマネージメントの特性. 日本看護学会論文集地域看護 34:153-155, 2004.			
3. 高橋郁子, 守田孝恵, 山崎秀夫, <u>石川由美子</u> , 飯島節, 畑下博世: 高齢者施設の感染対策における保健所の役割と課題—感染者患者・保因者の受け入れ拡大にむけて. 日本看護学会論文集地域看護 35:108-110, 2005.			
4. 高橋郁子, 守田孝恵, 山崎秀夫, 村上満子, <u>石川由美子</u> : 山口県 of 精神保健福祉活動の実態と今後の課題. 日本看護学会論文集精神看護 36:175-177, 2006.			
5. 守田孝恵, 山崎秀夫, 村上満子, <u>石川由美子</u> , 高橋郁子: 地域における精神障害者の生活環境整備に関する研究. 日本看護学会論文集精神看護 36:178-180, 2006.			
6. 高橋郁子, 守田孝恵, 山崎秀夫, 村上満子, <u>石川由美子</u> , 飯島節: 高齢者施設における感染症患者・保因者受け入れの実態. 日本看護学会論文集精神看護 36:207-209, 2006.			

7. 高橋郁子, 守田孝恵, 山崎秀夫, 村上満子, 石川由美子, 飯島節: 感染症患者・病原体保有者の高齢者施設の利用状況 感染症の発生と感染症対応. 保健医療科学 55:147-153, 2006.

【症例報告】

【総 説】

欧文

1. Yoneda J, Ishikawa Y: A Longitudinal Study of Caregiver Burden: Differences between Japanese Female and Male Spouse Caregivers of People with Dementia. Nursing and Health Sciences 6: 161-164, 2004.

和文

1. 守田孝恵・畑下博世・石川由美子: 保健師活動と I T. 保健師ジャーナル 60: 248-252, 2004.

【そ の 他】

欧文

1. Ishikawa Y, Morita T, Hatashita H, Matsumoto H, Yamazaki H, Yamaguchi S, Arai N, Kudo K, Takahashi I: Japan' s environmental condition for people with psychological impairment: Health care workers' perception. The 6th Nursing Academic International Congress on Mind & Body, Seoul, Korea, June 24-25, 2004.
2. Ishikawa Y, Takahashi I, Morita T, Yamazaki H: Improving handwashing adherence among primary health workers caring for vulnerable elderly populations. Proceeding of the 3rd International Conference on Community Health Nursing Research, Tokyo, Japan, September 30 to October 2, 2005.
3. Ishikawa Y, Melby C, Morita T, Yamazaki H, Takahashi I: The Group process of developing honor society in Japanese academic program. The 38th Biennial Convention Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, Indianapolis, USA, November 12-16, 2005.
4. Ishikawa Y: Stress, mental health and intervention in occupational settings. 19th Annual Art & Science of Health Promotion Conference, San Francisco, USA, March 16-19, 2009.

教育・研究業績書

領域名	職名	氏名	
地域看護学	講師	宮本 和子	
II 学会等および社会における主な活動			
1995年 7月～現在	日本公衆衛生学会員		
2006年 4月～現在	日本国際保健医療学会員		
2007年 8月～現在	日本寄生虫学会員		
2007年 10月～現在	日本熱帯医学会員		
2009年 4月～現在	Member of International Union for Health Promotion and Education		
2009年 4月～現在	国際喘息学会日本支部会員		
III 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 中園直樹, 宮本和子: 栄養. 日本国際保健医療学会編, 国際保健医療学 杏林書院, pp142-146, 2005.			
2. 中園直樹, 宮本和子, 伊達卓二: 国際人道援助活動としての国際医療協力—カンボジアプロジェクトを事例として. 守本とも子監修, 堀内美由紀編集, 国際看護への学際的アプローチ 日本放射線技師会出版会, pp19-39, 2009.			
【原 著】			
【症例報告】			
【総 説】			
【そ の 他】			